

苫小牧市 観光振興ビジョン

平成28年2月
苫小牧市



とま子ヨッパ
©2011 苫小牧市

はじめに

苫小牧市は国際拠点港湾である海の玄関「苫小牧港」と空の玄関「新千歳空港」のダブルポートを有し、鉄道、国道、高速自動車道などの交通アクセスにも恵まれ、北海道経済発展の大きな役割を担う産業拠点都市として発展を続けております。

一方で、樽前山麓の広大な森林をはじめ、ラムサール条約の湿地に登録され、全国屈指の渡り鳥の中継地として知られるウトナイ湖を有するなど、豊かな自然に囲まれたまちでもあります。

本市では、苫小牧市総合計画(基本構想・第5次基本計画改訂版)に基づき、活力ある産業と賑わいのまちの実現に向けて、観光地域の基盤整備と魅力ある観光地の形成を目指してまいりました。

しかしながら、近年、インバウンド(=訪日外国人旅行者)の飛躍的な増加、産業観光やグリーンツーリズムといったニューツーリズムに代表される旅行ニーズの多様化、あるいは、スマートフォンやタブレット端末の普及に伴うソーシャルメディア利用率の向上など、観光を取り巻く環境は大きくかつ急激に変化しています。

そこで、本市の観光振興の進むべき方向性とあり方を示し、施策の体系的な展開を図るため、このたび新たに「苫小牧市観光振興ビジョン」を策定いたしました。

全国で多くのまちが観光振興に取り組む中、本市が観光客に選ばれるまちとなるためには、行政だけではなく、市民や事業者、観光協会をはじめとする関係団体等の皆様との連携が不可欠であり、地域一体で観光まちづくりに取り組むことが必要となります。

本ビジョンでは、「地域の魅力の有効活用」、「まちぐるみでの観光推進」、「新たな魅力づくり」という3つの目標の達成に向けて各種施策を展開することで、交流人口の増加による地域経済の活性化を目指してまいります。

終わりに、本ビジョン策定に当たり、貴重なご提案等をいただいた「ビジット苫小牧観光会議」の委員の皆様をはじめ、関係各位に心からお礼を申し上げます。

平成28年2月

苫小牧市長 岩倉博文

目 次

第1章 背景	1
1 国の動向	1
2 北海道の動向	2
(1)観光入込客数	3
(2)観光客の動態	4
第2章 苫小牧市における観光の現況と課題	5
1 観光入込客数(延べ人数)	5
2 調査対象別観光入込客数(延べ人数)	7
第3章 基本的な考え方	11
1 位置付け	11
2 構成	12
3 目的	13
4 目標	14
(1)地域の魅力の有効活用	14
(2)まちぐるみでの観光推進	15
(3)新たな魅力づくり	16
第4章 主要施策	17
1 観光資源の整備・活用	17
(1)豊かな自然環境の情報発信に努めます。	17
(2)産業集積都市「とまこまい」として産業観光を推進します。	17
(3)食のブランド化を推進します。	17
2 観光施設の整備・活用	18
(1)スポーツ・レジャー施設の有効活用にあつめます。	18
(2)道の駅「ウトナイ湖」を観光拠点として整備します。	18
3 観光推進体制の強化	19
4 各種イベントの開催	19
5 海の玄関「苫小牧港」のおもてなし強化	20
6 フィルムコミッションの誘致	21
7 大会・合宿誘致の推進	22
8 インバウンドの拡大	23
第5章 推進体制	25
1 市民の役割	25
2 観光事業者の役割	25
3 観光協会の役割	25
4 行政の役割	25
資 料 ビジット苫小牧観光会議	27
1 ビジット苫小牧観光会議設置要綱	27
2 ビジット苫小牧観光会議委員構成	28
3 ビジット苫小牧観光会議開催経過	29

第1章 背景

1 国の動向

少子高齢社会の到来や本格的な国際交流の進展を視野に、観光がその使命を果たすことができる観光立国の実現を国家戦略として位置付け、「観光基本法」を全面改正した「観光立国推進基本法」が平成18年12月に成立し、平成19年1月より施行されています。

本法律において、観光は21世紀における日本の重要な政策の柱として初めて明確に位置付けられ、平成20年10月には国土交通省に観光庁が設定されるなど、観光立国の実現に向けた取組を推進しています。

【観光立国の実現に向けた国の取組】

平成15年	1月	小泉純一郎総理(当時)が「観光立国懇談会」を主宰
	4月	ビジット・ジャパン事業開始
平成18年	12月	観光立国推進基本法が成立
平成19年	6月	観光立国推進基本計画を閣議決定
平成20年	10月	観光庁設置
平成21年	7月	中国個人観光ビザ発給開始
平成24年	3月	観光立国推進基本計画 ⁱ を閣議決定
平成25年	12月	訪日外国人旅行者数1,000万人達成
平成26年	10月	改正「外国人旅行者向け消費税免税制度」運用開始 (免税対象品目拡大・手続き簡素化)
平成27年	4月	改正「外国人旅行者向け消費税免税制度」運用開始 (免税手続きカウンター制度・クルーズふ頭の臨時販売店制度)
	6月	「観光立国実現に向けたアクション・プログラム2015」を策定

ⁱ 平成24年3月策定の観光立国推進基本計画では、「震災からの復興」、「国民経済の発展」、「国際相互理解の増進」、「国民生活の安定向上」を基本方針として、改めて観光による経済再生を目指すことを謳い、従前の基本計画で示された目標に、訪日外国人旅行者の満足度、観光地域の旅行者満足度を新たに加え、観光の裾野の拡大と質の向上を図ることとした。

また、国が講ずべき施策として、①国内外から選好される魅力ある観光地づくり(観光地のブランド化・複数地域間の広域連携等)、②オールジャパンによる訪日プロモーションの実施、③国際会議等のMICE分野の国際競争力強化、④休暇改革の促進を挙げ、平成28年度までの5年間で実施する具体的な内容を示している。

2 北海道の動向

北海道では、観光にかかわる産業を北海道経済のリーディング産業として位置付け、道民の総意として観光振興に取り組むため、平成13年10月19日に公布・施行した「北海道観光のくにつくり条例」に基づき、観光にかかわるすべての関係者が連携・協働して観光振興に関する施策を総合的、計画的に推進するための、「北海道観光のくにつくり行動計画」を策定しています。

平成25年度からの第3期行動計画では、本州と北海道を結ぶLCCや北海道新幹線などの新たな交通インフラを最大限に活かしながら、旅行形態に応じた新たな魅力ある滞在型の観光地づくりや、国内外からの誘客活動を通じて地域経済の活性化を図り、目標を定めて着実に進めることを計画しています。

また、全国を上回るスピードで人口減少が進んでいる北海道では、経済規模の縮小など、地域経済への影響が懸念されるため、平成27年7月に「人材」「地域」「知・技術」「健康長寿・医療」「環境・エネルギー」の5つの戦略分野を軸に産業集積を図る「地域経済の強化に向けた基本方針」(以下、「基本方針」という。)を策定しています。

基本方針に基づく、観光分野の取組としては、外国人観光客の誘客促進のための効果的なプロモーションのほか、ビザ要件緩和の要望や国際航空路線の誘致、Wi-Fi環境の整備促進など、受入体制の拡充などにより、2020年度における外国人観光客数300万人を目指しています。加えて、平成28年3月26日開業の北海道新幹線の全道への波及効果を高めるため、地域資源を活用した着地型観光メニューの開発などを図っています。

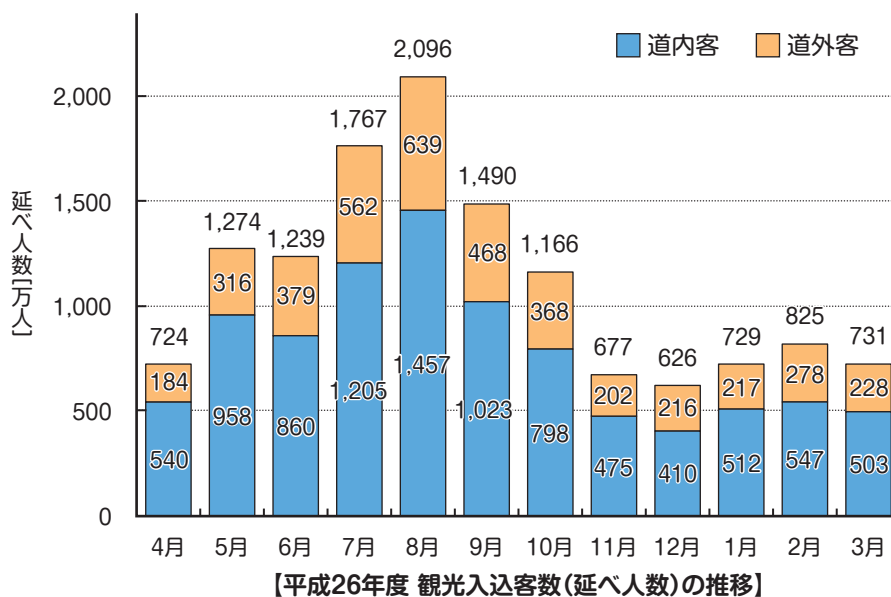
【「地域経済の強化に向けた基本方針」(北海道、平成27年7月)の目指す姿】

世界を視野に入れた力強い地域経済の確立

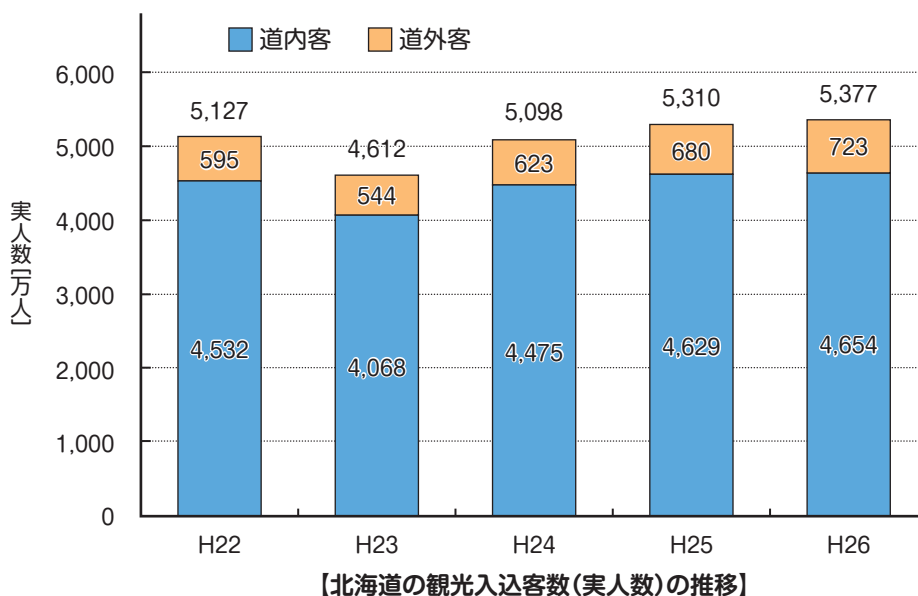
- 優れた産業人材が育成・確保され、地域で付加価値を生み出す動きが活発になるとともに、新たな産業分野に挑戦する企業が増加し、地域の産業力が高まり、域外需要の取り込みの動きも進展
- それぞれの国の市場にマッチした北海道の農水産物や加工食品が世界に広がる
 …………… 道産食品輸出1,000億円
- 地域を行き交い道民と交流を深め、地域のものやサービスを消費する外国人観光客が増加
 …………… 外国人観光客300万人来訪

(1) 観光入込客数ⁱⁱ

北海道の観光入込客(延べ人数)は、繁忙期(5月～10月)と閑散期(11月～4月)の季節格差が大きいのが特徴です。平成26年度の北海道観光入込客数調査によると、8月の2,096万人と比べ、最も少なかった12月には70%以上減少し626万人となっています。観光入込客数の実人数としては、平成23年3月に発生した東日本大震災等の影響により、一時的に減少したものの、平成24年度は観光需要が回復基調に転じ、平成26年度は5,377万人となり、前年度の5,310万人を超え過去最高を更新しました。



出典:平成26年度北海道観光入込客数調査報告書資料編、北海道経済部観光局

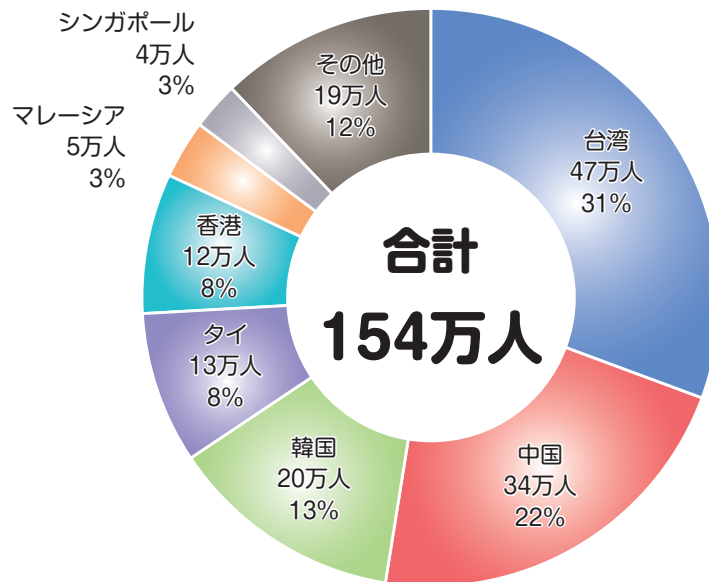


出典:北海道観光入込客数(実人数)の推移、北海道経済部観光局

ii 観光入込客数は、観光庁策定の「観光入込客統計に関する共通基準」に基づき、市外客率や平均訪問地点数を考慮した人数となる。

増加傾向にある訪日外国人来道者数(実人数)は、はじめて100万人を越えた平成25年度の115万3,100人を上回り、154万1,300人(対前年度比33.7%増)となり、過去最高を更新しました。

内訳としては、台湾が47万2,700人と最も多く、次いで中国の34万人、韓国の20万1,100人、タイの12万8,300人、香港の12万200人と続き、アジア圏からの来道者が、全体の9割近くを占めています。



【平成26年度 訪日外国人来道者数(実人数)の内訳】

出典：訪日外国人来道者数(実人数)の推移、北海道経済部観光局

(2) 観光客の動態

北海道経済部観光局が平成27年10月に策定した「北海道観光の現況2015」によると、北海道を訪れる観光客の特徴として、次の傾向が示されています。

- ① 半数近くが50代以上
- ② 群を抜いて多いのは関東圏からの来道客
- ③ 家族旅行が大半で団体・グループ旅行は減少傾向
- ④ 長期滞在客が増加傾向
- ⑤ 80%以上が過去に北海道を訪れた経験があるリピーター
- ⑥ 自然鑑賞や温泉、買い物、飲食、ドライブなど旅行目的は多様化
- ⑦ パッケージツアーを利用しない観光客が増加傾向
- ⑧ 北海道内における移動手段は鉄道が増加傾向
- ⑨ 宿泊先の手配や旅行情報の入手先としてインターネット利用が急増中

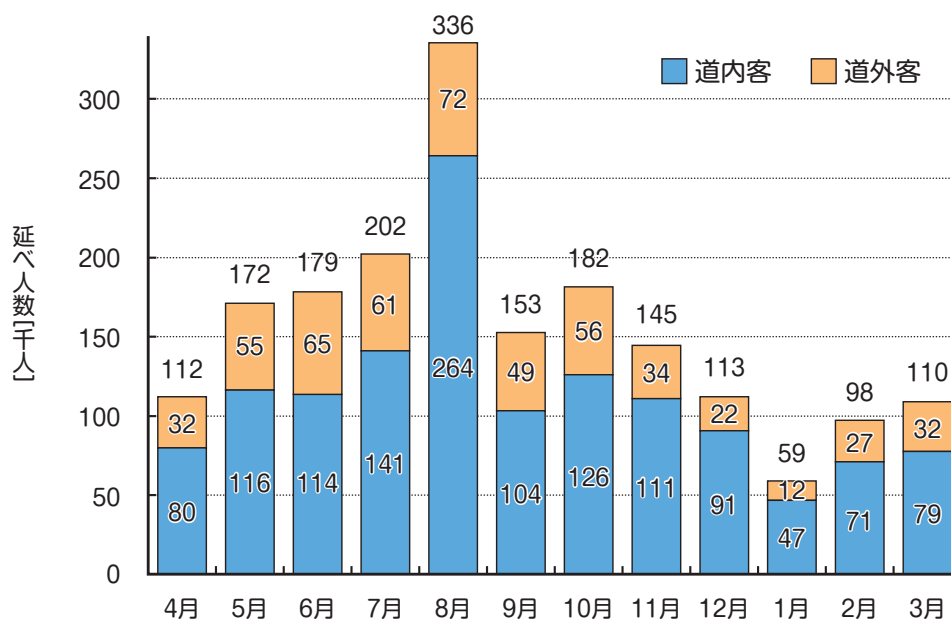
第2章 苫小牧市における観光の現況と課題

1 観光入込客数(延べ人数)

本市の観光入込客の大半は道内客で、季節格差が極端に大きいのが特徴です。

平成26年度調査では、最も少なかった1月の59,000人と、最も多かった8月の336,000人を比較すると、およそ6倍の格差があります。

また、観光入込客に占める宿泊客の割合としては、北海道の18.1%に対し、本市は6.2%と低くなっています。



【平成26年度 観光入込客数(延べ人数)の推移】

出典：平成26年度北海道観光入込客数調査報告書資料編、北海道経済部観光局

【平成26年度 北海道と苫小牧の観光入込客数の比較】

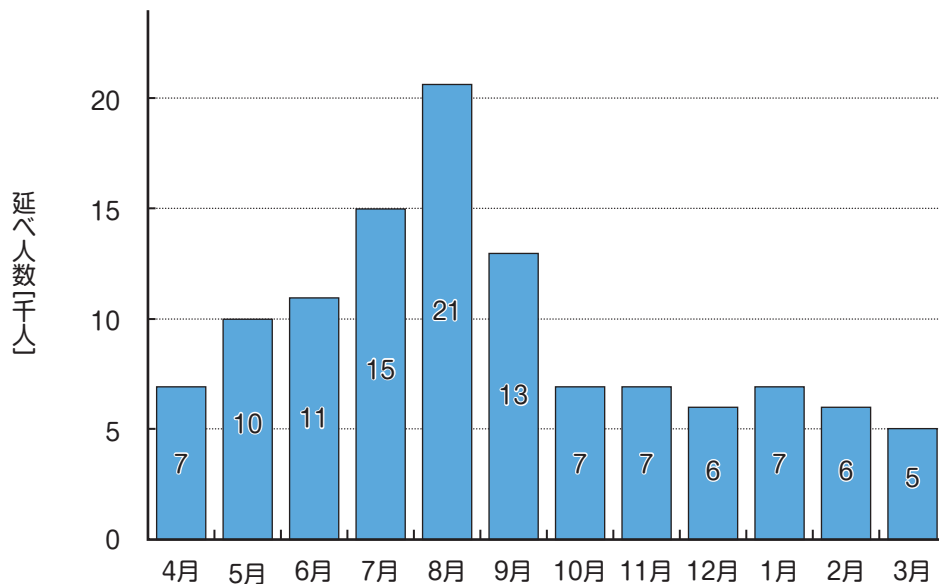
	日帰客	宿泊客	合計
北海道 (構成割合)	10,923万人 (81.9%)	2,421万人 (18.1%)	13,343万人 (100.0%)
苫小牧 (構成割合)	175万人 (93.8%)	11万人 (6.2%)	186万人 (100.0%)

出典：平成26年度北海道観光入込客数調査報告書資料編、北海道経済部観光局

宿泊客の月別推移では、最も多い8月には延べ2万人以上が宿泊していますが、3月には4分の1の5千人まで減少するため、宿泊施設の客室稼働率の変動も激しいものと推測されます。

平成26年度の宿泊客延数を見ると、人口が同規模の釧路市と帯広市は、いずれも100万人・泊を越えている一方、本市は16万人・泊と極端に少なくなっています。

これらのことから、本市は日帰客が多い、典型的な通過型の観光地であると言えます。



【平成26年度 観光入込客のうち宿泊客(延べ人数)の推移】

出典：平成26年度北海道観光入込客数調査報告書資料編、北海道経済部観光局

【宿泊客延数】

順位	市町村名	宿泊客延数		
		平成25年度	平成26年度	対前年度比
1	札幌市	1,090万人・泊	1,110万人・泊	+1.9
2	函館市	353万人・泊	361万人・泊	+2.1
3	釧路市	120万人・泊	129万人・泊	+7.6
4	登別市	121万人・泊	121万人・泊	+0.2
5	帯広市	97万人・泊	102万人・泊	+5.5
28	苫小牧市	17万人・泊	16万人・泊	△7.1

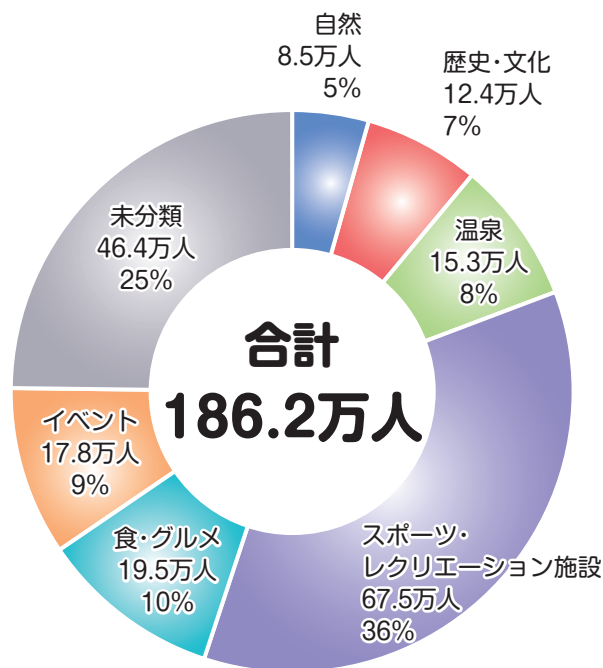
出典：平成25及び26年度北海道観光入込客数調査報告書資料編、北海道経済部観光局

2 調査対象別観光入込客数(延べ人数)

平成26年度の観光入込客を調査対象別に分類すると、本市では、ゴルフやスケートの「スポーツ・レクリエーション施設」を目的とする観光入込客が最も多く、全体の36.3%を占めています。

調査対象地としては、道の駅ウトナイ湖(46.3万人)とノーザンホースパーク(19.9万人)、海の駅ぶらっとみなと市場(19.5万人)の集客力が高くなっています。

また、市内にはゴルフ場が10か所あり、新千歳空港に近く、札幌圏からの交通アクセスにも優れているため、ゴルフ目的の観光入込客は28.0万人と、全体の15.0%を占めています。



【平成26年度 調査対象別観光入込客数(延べ人数)】

出典：平成26年度観光入込客数調査、苫小牧市



【ゴルフ場から見た樽前山】

【調査対象別観光入込客数】

分類	調査対象地	入込客数	(構成割合)
自然		8.5万人	(4.6%)
	樽前山	2.0万人	(1.1%)
	オートリゾート苫小牧アルテン	3.1万人	(1.6%)
	野生鳥獣保護センター	1.9万人	(1.0%)
	その他	1.5万人	(0.8%)
歴史・文化		12.4万人	(6.6%)
	苫小牧港開発(株)フェリーターミナル	9.2万人	(4.9%)
	その他	3.2万人	(1.7%)
温泉		15.3万人	(8.2%)
	ゆのみの湯	10.8万人	(5.8%)
	その他	3.3万人	(1.8%)
スポーツ・レクリエーション施設		67.5万人	(36.3%)
	ゴルフ場	28.0万人	(15.0%)
	ノーザンホースパーク	19.9万人	(10.7%)
	スケート場	8.9万人	(4.8%)
	総合体育館	5.5万人	(3.0%)
	その他	5.2万人	(2.8%)
食・グルメ	海の駅ぶらっとみなと市場	19.5万人	(10.5%)
イベント		17.8万人	(9.6%)
	とまこまい港まつり	10.8万人	(5.8%)
	その他	7.0万人	(3.8%)
未分類		46.4万人	(24.9%)
	道の駅ウトナイ湖	46.3万人	(24.9%)
	その他	0.1万人	(0.1%)
合 計		186.2万人	

出典：平成26年度観光入込客数調査、苫小牧市



【ノーザンホースパーク】



【海の駅ぶらっとみなと市場】

参考：東胆振の新しい観光のあり方に関する調査結果について

苫小牧市、白老町、厚真町、安平町、むかわ町の1市4町は、この地域の食材や物産、自然環境などの豊富な地域資源を活かし、交流人口の増加と地域の活性化を目指す新たな取組として、平成22年12月に「東胆振地域ブランド創造協議会」を立ち上げ、東胆振地域ブランド戦略事業を展開しています。

同協議会では、東京、札幌、十勝圏の居住者1,030名に対するインターネット調査や観光客401組への聞き取り調査等を通じて、東胆振地域の観光ポテンシャルを分析し、平成24年3月に「東胆振の新しい観光のあり方に関する調査報告書」として、取りまとめています。

【調査結果概要】

調査項目		調査結果
有効な観光ターゲット	居住地	道内
	客層	① 40代男性と30～40代女性の子連れ家族 ② 30代男性と20代女性の恋人又は夫婦 ③ 女性2・3人のグループ
住民が…	最もおすすめする地域の魅力	食
	最も優先すべきと考える観光振興策	情報発信
観光客が苫小牧について…	イメージ	① 豊かな水産物 ② 工業地帯
	魅力的な観光資源	① ウトナイ湖 ② ノーザンホースパーク ③ オートリゾート苫小牧アルテン
	よく知らないが興味深い観光資源	① 工場夜景 ② イルカウォッチング ③ イコロの森 ④ 美々川カヌー

【東胆振のSWOT分析結果】

	プラス面	マイナス面
内部環境	強み(Strength) ●ブランド力のある食資源 ……ホッキ貝 ●他エリアと差別化できる観光資源 ……産業観光 ●アクセス環境の良さ …札幌近郊+空港	弱み(Weakness) ●圧倒的な集客力を持つ観光資源がない ●観光資源の認知度が低い ●観光資源間や近隣市町村との連携不足 ●民間の観光事業者不足
外部環境	機会(Opportunity) ●観光立国・地域活性化の機運の高まり ……東胆振ブランド創造協議会、nittan ●北海道への航空路線の新千歳空港集中化 ●観光の多様化・個人化 ……ニューツーリズムの台頭	脅威(Treat) ●観光地間の競争の激化 ●少子高齢化の進行

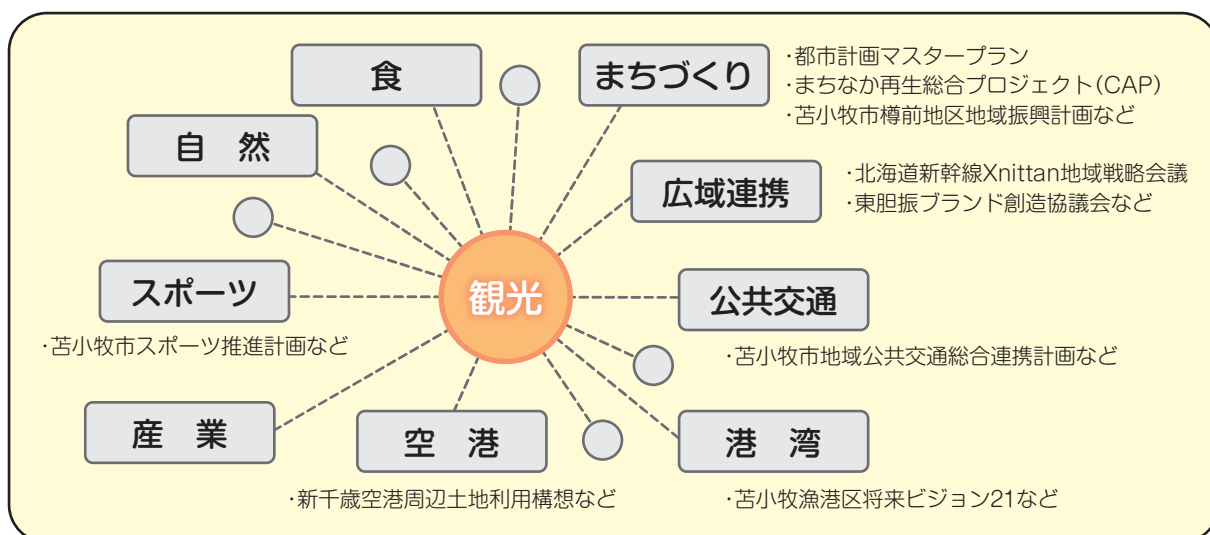
第3章 基本的な考え方

1 位置付け

苫小牧市観光振興ビジョンは、苫小牧市総合計画（基本構想・第5次基本計画改定版）に基づき、「活力ある産業と賑わいのまち」の実現に向けて、本市の観光振興の進むべき方向性とあり方を示すものです。

観光は、自然や食をはじめ、まちづくり、広域連携、スポーツなど、幅広い分野の様々な要素から構成されているため、社会情勢の変化等に影響を受けやすいという側面があります。そのため、まちなか再生総合プロジェクトⁱⁱⁱや北海道新幹線×nittan地域戦略会議^{iv}をはじめ、関連計画との整合性を図りながら推進するとともに、観光を取り巻く社会情勢の変化に対応するため、おおむね10年程度を目処に見直しを行っていきます。

【観光の構成要素とのつながり】



iii 平成23年6月に策定したまちなか再生総合プロジェクト（Central Tomakomai Active Project: CAP）では、「にぎわいの創出」「公共交通の利便性の向上」「まちなか居住の推進」という3つの基本方針のもと、定住人口や交流人口の増加に向けた幅広い施策を展開している。

iv 北海道新幹線×nittan地域戦略会議（平成25年10月3日設立）は、平成28年3月26日に開業する北海道新幹線の胆振日高地域への波及効果を最大限に高めるために設立された官民一体の組織であり、「かける、新 みらい。」をコンセプトに、情報・観光・交通の3本柱と地域の連携を重点戦略として、地域経済の活性化のために活動している。

2 構成

本ビジョンでは、「交流人口の増加による地域経済の活性化」を目的に、「地域の魅力の有効活用」、「まちぐるみでの観光推進」、「新たな魅力づくり」を目標に掲げ、幅広い施策に取り組めます。

また、計画期間をおおむね3か年とする事業計画を立案した上で、各施策の実現を目指します。

目的	目標	主要施策	
交流人口の増加による地域経済の活性化	地域の魅力の有効活用	観光資源の整備・活用	<ul style="list-style-type: none"> ●豊かな自然環境の情報発信に努めます。 ●産業集積都市「とまこまい」として産業観光を推進します。 ●食のブランド化を推進します。
		観光施設の整備・活用	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ・レジャー施設の有効活用にあつめます。 ●道の駅「ウトナイ湖」を観光拠点として整備します。
	まちぐるみでの観光推進	観光推進体制の強化	
新たな魅力づくり	各種イベントの開催 海の玄関「苫小牧港」のおもてなし強化 フィルムコミッションの誘致 大会・合宿誘致の推進 インバウンドの拡大		

3 目的

少子高齢社会の到来が見込まれる中、将来に向けて活力ある産業を育成し、魅力と賑わいのある街並みを創出することは容易ではありません。

人口増加が続いてきた本市においても、すでに自然減の兆候が現れており、25年後(平成52年)の人口は14万人台に減少するとの見込み^vもあります。

このような将来の人口減少・少子高齢社会に対応するためには、新たな成長産業を育成する必要があります。

他の地域から人を呼び込むためには、本市が自然と産業の共生する、快適で住みやすいまちであることを私たち一人ひとりが再認識し、地域の特性をまちの魅力として磨き上げた上で、その魅力を積極的に発信することが必要となります。

そして、他の地域から多くの人を呼び込むことで、新たな消費が生まれ、観光関連産業の成長や新たな産業の創出につながります。

本ビジョンでは、このような長期的な視点からまちぐるみで観光振興に取り組み、交流人口の増加による地域経済の活性化を目的とします。

v 日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計), 国立社会保障・人口問題研究所

4 目標

(1) 地域の魅力の有効活用

本市には、樽前山麓の広大な森林をはじめとする豊かな自然、平成12年以来、14年連続水揚げ日本一の「ホッキ貝」に代表される美味しい食材、一般社団法人 日本オートキャンプ協会認定の全国屈指の五つ星キャンプ場「オートリゾート 苫小牧アルテン」など、様々な観光資源が点在しています。

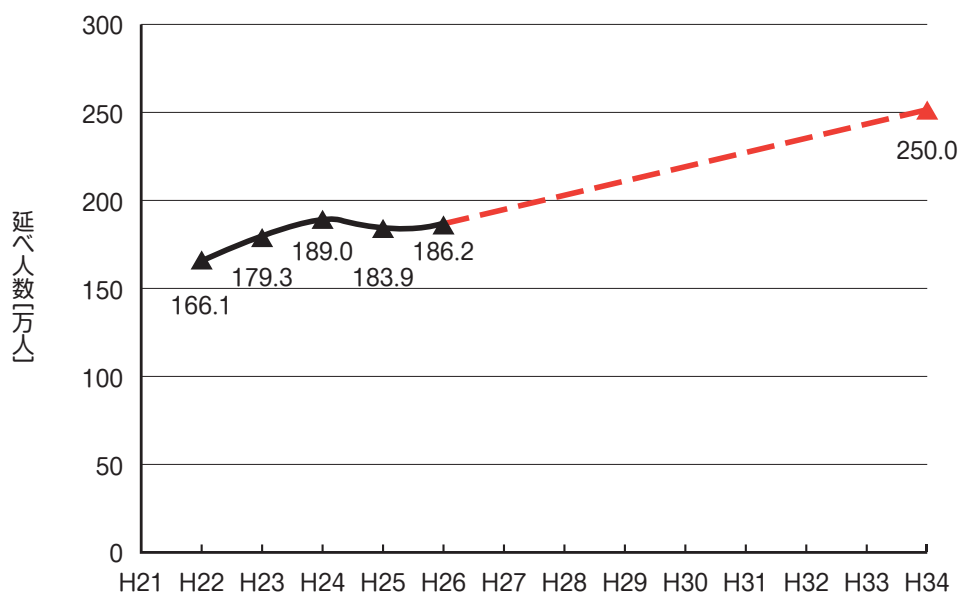
これらの観光資源を有効に活用し、魅力ある観光地づくりを進めていきます。



【オートリゾート苫小牧アルテン】

【評価指標】

指 標	目標(H34)	参 考
苫小牧市観光入込客数	250万人	H26実績 186.2万人



【観光入込客数(延べ人数)の推移】

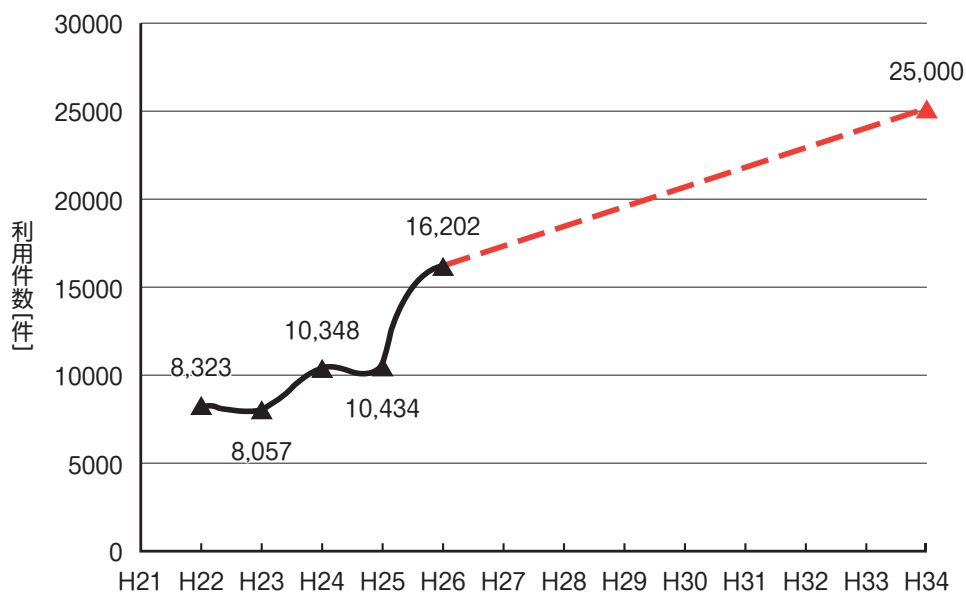
(2) まちぐるみでの観光推進

本市を訪れる観光客は、様々な人やサービスに接した上で、まちへの印象や思いを持ち帰るため、行政だけが観光振興に取り組んだとしても、本市のファンやリピーターが増えることはありません。

そのため、観光客と接するすべてのものが一体となり、まちぐるみで観光振興を推進します。

【評価指標】

指 標	目標(H34)	参 考
観光案内所利用状況	25,000件	H26実績 16,202件



【観光案内所利用状況の推移】

(3)新たな魅力づくり

近年、本市では、「とまこまいコスプレフェスタ」やご当地キャラクター「とまチョップ」などの新たなサブカルチャーが注目を浴びているほか、第36回日本アカデミー賞において多くの賞を受賞した映画「のぼうの城」(平成24年11月公開)のロケ地として採用されるなど、新しい動きが出てきています。

観光は幅広い分野の様々な要素から構成されているため、新しい動きが新たな地域の魅力につながるよう、関係者と一体となり、様々な仕掛けを展開します。

【評価指標】

指 標	目標(H34)	参 考
各種イベント観光客動員数 (とまこまい港まつり、とまこまいスケートまつり、たるまえサンフェスティバル、東胆振物産まつり)	55万人	H26実績 50.2万人



【客船を見送る「とまチョップ」】

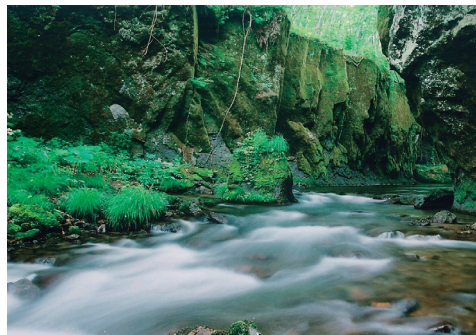
第4章 主要施策

1 観光資源の整備・活用

(1) 豊かな自然環境の情報発信に努めます。

本市には、溶岩ドームを持つ世界でも珍しい三重式火山の樽前山や、全国屈指の渡り鳥の中継地と知られるウトナイ湖だけではなく、樽前ガローや七条大滝など、まだ多くの人に知られていない隠れた自然景観も存在します。

これらの自然景観を観光資源として活用するため、積極的な情報発信に努めます。



【樽前ガロー】

(2) 産業集積都市「とまこまい」として産業観光を推進します。

まちの中心にある製紙工場の煙突に代表されるように、本市は、北海道経済の発展を支える産業集積都市として成長してきました。

また、東部地域では、自動車関連産業や石油精製業、メガソーラー、植物工場など、幅広い多様な産業の集積が進んでいます。

これらを新たな観光資源として捉えた産業観光を推進し、新たな観光需要を発掘します。



【工場夜景】

(3) 食のブランド化を推進します。

自然豊かな東胆振地域(苫小牧市、安平町、厚真町、白老町、むかわ町)には、「苫小牧産ほっき貝」に代表される水産資源をはじめ、農畜産物から山菜に至るまで、幅広く豊富な食材があり、それらを活用した地元特産品も生産されています。

近年は、地元食材を活かした新たなご当地グルメの開発等も進んでおり、地域の食の魅力を発信するため、関係機関等と連携し、食のブランド化を推進します。



【苫小牧産ほっき貝】

2 観光施設の整備・活用

(1) スポーツ・レジャー施設の有効活用に努めます。

昭和41年に全国初の「スポーツ都市宣言」を行った本市には、アジアリーグアイスホッケーに所属する王子イーグルスのホームリンク「白鳥王子アイスアリーナ」をはじめ、市内10か所、計297ホールもあるゴルフ場や陸上競技場など様々なスポーツ施設が整備されています。

また、市内には、全国屈指の五つ星キャンプ場「オートリゾート苫小牧アルテン」や苫小牧港のシンボル緑地「キラキラ公園」、カヌー、乗馬などが楽しめるレジャー施設も存在します。

スポーツやアウトドア等のアクティビティを通じた新たな観光の提案に向けて、これらの施設の有効活用に努めます。



【白鳥王子アイスアリーナ】



【美々川カヌー】

(2) 道の駅「ウトナイ湖」を観光拠点として整備します。

道の駅「ウトナイ湖」は、北海道の海の玄関「苫小牧港」と空の玄関「新千歳空港」に近く、道央圏の大動脈である国道36号線沿いに位置しています。また、日本屈指の渡り鳥の中継地「ウトナイ湖」に面していることもあり、平成26年度の観光入込客(延べ人数)は46.3万人と、市内で最も多い施設となっています。

本市では、道の駅「ウトナイ湖」を観光拠点の一つに位置付け、観光情報の発信や地場製品の促進等を通じて、交流人口の増加に取り組みます。



【道の駅ウトナイ湖】

3 観光推進体制の強化

観光振興を図るためには、観光事業者、観光団体、経済団体、行政機関など官民一体の連携が必要となります。

また、観光担当組織の見直し等により、観光推進体制を強化し、積極的な情報発信に努めます。

4 各種イベントの開催

本市では、市民に定着している歴史ある「とまこまい港まつり」や「とまこまいスケートまつり」から「とまこまいコスプレフェスタ」まで、様々なイベントが開催されています。

イベント開催を観光客の誘致につなげるため、地域の内外に積極的に情報発信するとともに、主催団体や関係機関等と連携し、既存イベントのブラッシュアップや新たな仕掛けを通じて、特徴あるイベントを開催していきます。



【とまこまい港まつり】



【スケートまつり名物しばれ焼き】

5 海の玄関「苫小牧港」のおもてなし強化

苫小牧港^{vi}は、八戸、仙台、大洗、名古屋、秋田、新潟、敦賀の国内7都市とフェリー定期航路で結ばれているほか、クルーズ客船「飛鳥Ⅱ」や「ぱしふいっくびいなす」、「にっぽん丸」等も寄港する北海道の海の玄関となっています。

本市の魅力や知名度を向上させるため、クルーズ船やフェリーの乗船客に対する官民一体の「おもてなし」に取り組みます。



【寄港中のクルーズ船「にっぽん丸」】



【寄港中の大型帆船「海王丸」】



【クルーズ船「飛鳥Ⅱ」の出航セレモニー】



【苫小牧港に寄港中のフェリー3隻】

vi 苫小牧西港フェリーターミナルでは、フェリーが縦に3隻並ぶ珍しい光景を見ることができる。

6 フィルムコミッションの誘致

本市は、自然と産業が共生しているため、山、河川、湖沼、海、原野、工場、煙突など様々なロケーションを提供することができるまちであり、映画「のぼうの城」(平成24年11月公開)やテレビドラマ「いつかこの恋を思い出してきっと泣いてしまう」(平成28年1月～3月)などのロケ地として採用されています。

苫小牧を舞台とする、全国番組やテレビCM、映画等の撮影は、地域PRの絶好の機会であることはもちろん、撮影後には交流人口の増加も期待できます。

そのため、フィルムコミッション事業を通じて、苫小牧を広くPRするため、映像製作者等への各種支援を行います。



【映画「のぼうの城」撮影風景】

7 大会・合宿誘致の推進

本市は、全国初の「スポーツ都市宣言」を行い、数多くのオリンピック選手を輩出しているほか、アジアリーグアイスホッケーに所属する王子イーグルスのホームタウンであり、毎年、全国高等学校選抜アイスホッケー大会「氷上の甲子園」が開催される「アイスホッケータウン」です。

また、市内には美しい景色と戦略性が豊かな10か所のゴルフ場があり、これまでに日本女子プロゴルフ協会(LPGA)主催のLPGAツアーの開催実績もあります。

スポーツ・文化・学術等の各種大会や会議、研修会等の開催は、産業振興や人材育成など、新たな魅力あるまちづくりにもつながります。

そのため、海の玄関「苫小牧港」と空の玄関「新千歳空港」のダブルポートを有し、鉄道、国道、高速自動車道などの交通アクセスに恵まれ、北海道の中では温暖で積雪量も少ない気候、充実した施設などの優位性を積極的にPRし、スポーツ合宿や大会誘致を推進します。



【アジアリーグアイスホッケー所属「王子イーグルス」】

8 インバウンドの拡大

平成26年度の観光入込客数調査によると、本市を訪れる外国人宿泊者数は20,055人となっています。

内訳としては、中国が12,455人と最も多く、全体の62.1%を占めています。次いで台湾の2,628人、韓国の2,374人と続き、上位3地域で、全体の87.0%を占めています。

また、平成22年度と比較すると、外国人宿泊者数は1.7倍に増加していますが、その主な原因は中国人観光客の増によるものであり、中国経済や社会動向に大きく左右される可能性があるものと推測されます。

北海道を訪れる外国人観光客は年々増加し、台湾、香港などの中華圏をはじめ、最近では特にシンガポール、タイなどの東南アジアからの来道者が増えていますが、主な宿泊先は、札幌市、登別市、函館市、洞爺湖町など、温泉やショッピング等の圧倒的な誘致力のある観光資源を有している地域となっています。

外国人観光客誘致については、こうした本市の状況に加えて、国や道の観光振興施策との連動等も踏まえた取組を展開します。



【中国語版 苫小牧ガイド】

【国別訪日外国人宿泊者数の比較】

	平成22年度		平成26年度			
	延べ人数	構成割合	延べ人数	構成割合	増	減
中国	4,899人	42.1%	12,455人	62.1%	+7,556人	(2.5倍)
台湾	2,075人	17.8%	2,628人	13.1%	+553人	(1.1倍)
韓国	1,913人	16.4%	2,374人	11.8%	+461人	(1.2倍)
香港	203人	1.7%	771人	3.8%	+568人	(3.8倍)
シンガポール	153人	1.3%	700人	3.5%	+547人	(4.6倍)
その他	2,404人	20.6%	1,127人	5.6%	△1,277人	(0.5倍)
合計	11,647人		20,055人		+8,408人	(1.7倍)

出典：平成22及び26年度北海道観光入込客数調査報告書資料編、北海道経済部観光局

第5章 推進体制

本ビジョンは、ビジット苫小牧観光会議を中心に、市民や事業者、観光協会をはじめとする関係団体等と連携しながら、まちぐるみで推進します。

また、計画期間をおおむね3か年とする事業計画を立案した上で、本ビジョンに掲げた目標の達成を目指します。

1 市民の役割

観光客は、様々な人やサービスに接した上で、まちへの印象や思いを持ち帰るため、市民一人ひとは、本市の魅力を発信する重要な担い手となります。

そのため、観光客を温かく迎える「おもてなし」に努めるとともに、地域の魅力づくりに協力するよう努めます。

2 観光事業者の役割

観光事業者は、地域の魅力を有効に活用し、その事業活動を行うよう努めます。

また、観光振興はまちぐるみで取り組む必要があるため、事業活動の展開に当たっては、観光協会や行政、関連機関等との幅広い連携に努めます。

3 観光協会の役割

観光協会は、その設立目的^{vii}を踏まえ、本ビジョンの積極的な推進に努めます。

また、外国人観光客対応を含む観光コンシェルジュ機能の強化や観光ボランティアガイドの育成等により、ホスピタリティの向上に努めます。

4 行政の役割

本ビジョン策定に伴い観光担当組織の見直しを行い、観光推進体制を強化します。

また、国や道の観光施策と連携した施策の展開と、北海道新幹線×nittan地域戦略会議や東胆振地域ブランド創造協議会等の広域連携の強化に努めます。

vii 観光協会は、苫小牧市域及び支笏洞爺国立公園における観光客の誘致、観光施設の運営などの施策を講ずることにより、観光事業の健全な発展を図り、もって地域経済、文化の振興と市民生活の安定向上に寄与することを目的とする。

資料 ビジット苫小牧観光会議

1 ビジット苫小牧観光会議設置要綱

(目的)

第1条 本市における観光産業のつながりを強化するとともに、観光情報の共有により本市の観光を魅了する観光振興策を検討し、より多くの誘客を図ることを目的として、「ビジット苫小牧観光会議(以下「会議」という。)」を設置する。

(会議の協議・検討事項)

第2条 会議は、次に掲げる事項について協議・検討にあたるものとする。

- (1) 観光振興策に関する事項
- (2) 観光客の誘致推進に関する事項
- (3) その他1の目的を達成するために必要な事項

(組織)

第3条 会議は、市長の委嘱する委員をもって組織する。

- 2 会議に委員長1名、副委員長2名以内を置き、委員の互選により選出する。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員長は、会議を代表し、会務を総理し、会議の議長となる。

- 2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、委員長が指定する副委員長がその職務を代理する。

(会議の参画)

第5条 会議には、専門の事項を調査・協議するため必要があるときは、学識経験者、関係機関、関係団体等の参画を求めることができる。

(庶務)

第6条 会議の庶務は、苫小牧市産業経済部商業観光課において行う。

附則

この要綱は、平成22年3月3日から施行する。

2 ビジット苫小牧観光会議委員構成

	所 属 等
委 員 長	(一社)苫小牧観光協会 専務理事
副委員長	苫小牧商工会議所 専務理事
委 員 (14名)	(株)JTB北海道苫小牧支店 支店長
	苫小牧漁業協同組合 専務理事
	とまこまい広域農業協同組合 理事参事
	苫小牧市 産業経済部長
	苫小牧市 総合政策部まちづくり推進室長
	(一社)苫小牧青年会議所 理事長
	苫小牧フェリー協議会
	苫小牧港管理組合 総務部港湾振興室港湾振興課長
	北海道運輸局苫小牧海事事務所 所長
	(一社)北海道中小企業同友会 苫小牧支部
	(一社)北海道バス協会 (道南バス(株)苫小牧営業所長)
	北海道旅客鉄道(株) 苫小牧駅長
	一般公募(2名)

3 ビジット苦小牧観光会議開催経過

回	開催日	主な内容
1	平成22年3月29日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・委嘱状交付 ・委員長、副委員長の選出 ・ビジット観光会議について ・苦小牧市の観光の現状について
2	平成22年8月30日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・苦小牧の観光入込客数の推移について ・東胆振地域ブランド観光戦略事業について
3	平成23年3月25日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・観光のまちづくりと苦小牧観光の可能性について <ul style="list-style-type: none"> 〔講演 株式会社JTB北海道地域コンテンツ開発室 地域交流ビジネス担当 小林 慎弥 様〕 ・平成23年度における市の観光関連事業について
4	平成24年11月29日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの会議経過について ・苦小牧市の観光振興に向けた今後のあり方について
5	平成25年3月27日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・苦小牧市の観光振興に向けた今後のあり方について
6	平成26年1月15日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度における市の観光振興事業について ・観光客入込数の現状について ・苦小牧市の観光振興に向けた今後のあり方について
7	平成26年11月19日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・苦小牧市観光振興ビジョン(素案)について

苫小牧市観光振興ビジョン

平成28年2月発行

発行 / 苫小牧市

編集 / 苫小牧市産業経済部商業観光課